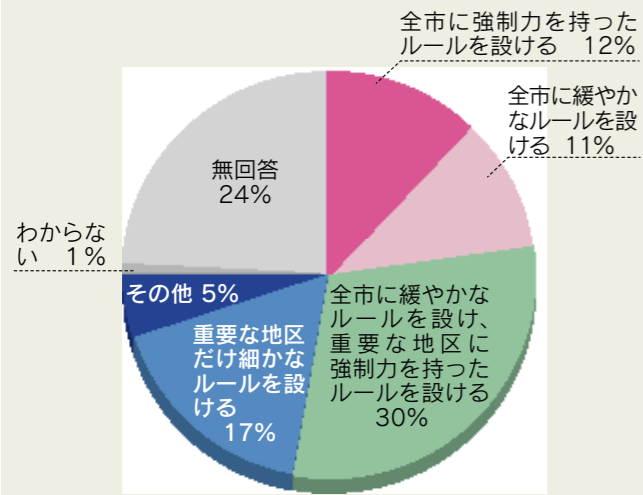


### ルールはどう設けるべきか

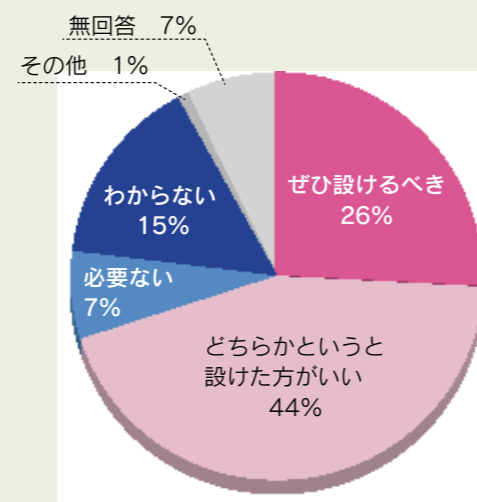
求められているメリハリあるルールづくり



ルールを設けるべきと答えた人に、どのようなルールが望ましいかを尋ねました。一番多かったのは、「市全体に緩やかなルールを設け、景観上、重要な地域には強制力を持ったルールを設ける」という回答です。全市的に何らかのルールを設けるべきと答えた人の合計は7割を占めており、市全体の景観づくりが求められていることが分かりました。

### 景観づくりにルールは必要か

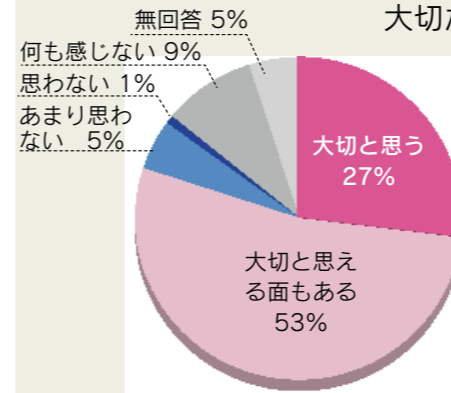
7割の人がルールづくりが必要と考える



良好な景観を維持するために、景観法に基づく強制力のあるルールを設けることについての是非を問いました。「ぜひ設けるべき」と「どちらかという設けた方がいい」と答えた人の合計は7割に上り、「必要ない」と答えた人を大きく上回りました。このことから、ある程度の規制を設けても良好な景観は守るべき、と考える人が多いことが分かります。

### 市内の景観を大切に思えるか

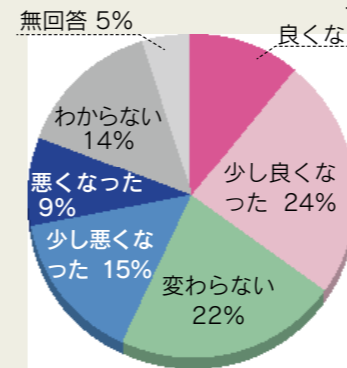
大切だと考えている人が8割を占める



市全体の景観についてどのように思うかの設問に、「大切と思う」と「大切と思える面もある」と答えた人は全体の8割を占めており、市民の皆さんが柳川の景観に愛着を持っていることがうかがわれます。

### 以前と比べ景観はどうなった

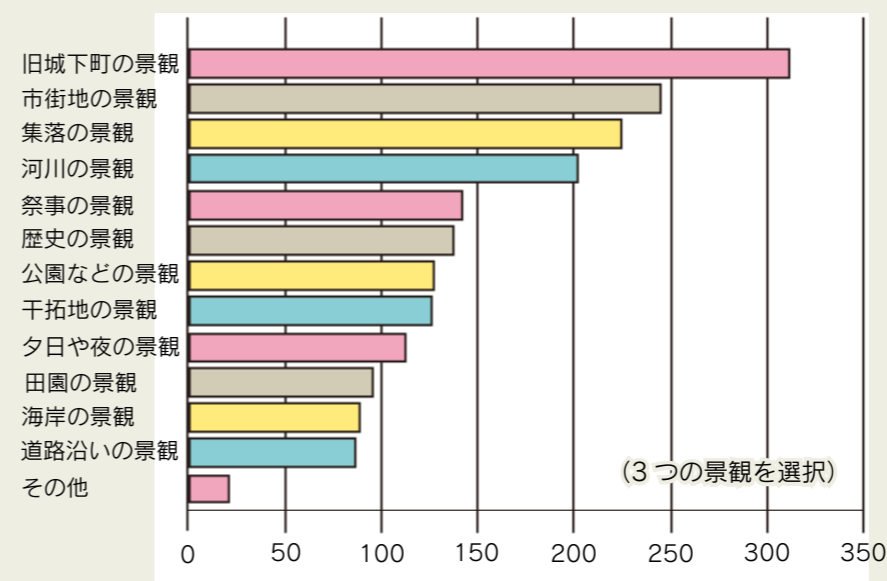
良くなったと考える人がやや多い



約10年前と比べ、まち並みや自然の景観がどう変わったか尋ねました。良くなったと感じる人は「少し良くなった」を含め35%。変わらないを含めると約6割の人が、市の景観は良好なまま維持されていると考えているようです。

### 整備したり守ったりしたい景観

旧城下町の景観と回答した人が最多



市全体で、今後重点的に整備したり、積極的に保護したりする景観は何かについて尋ねました。最も多かったのが旧城下町の景観で、市街地の景観がそれに続きます。このことは、両方の地域に共通する掘割のある景観が、市民の皆さんに柳川を象徴する景観として、かけがえのないものだと思われていることがうかがわれます。また、集落の景観を選んだ人も多く、広々としたのどかな景観が好まれているようです。

# 景観創造2012

## 柳川市景観計画

# 生活者から見た景観

市民は柳川の風景をどう評価し  
どうしたいと考えているのか

市は景観計画に市民の皆さんの考えを反映させるため、2009年12月に、18歳以上の市民2000人を対象にした意識調査を行いました。697人から回答があり、回収率は約35%でした。集計結果から主な項目を選び、市民の皆さんが大切と思う景観や、それを守り育てるために何をすべきと考えているのかを紹介します。

## まとめ

### 景観を大切にし協力的な意見が多い

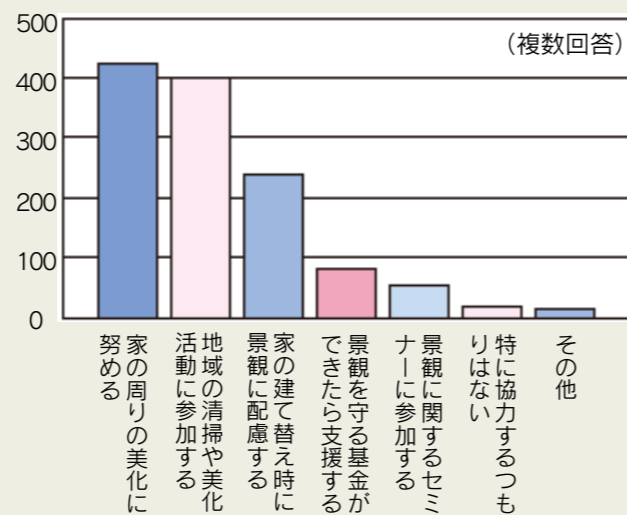
意識調査の結果からは、多くの方が市の景観に対し魅力を感じ、大切にしたいと考えていることが分かりました。特に掘割が巡る旧城下町の景観は、柳川を象徴する景観として整備していくべきとの意見が最も多く寄せられました。同時に、集落や市街地の景観の整備を求める意見も多く、良好な景観の中で暮らしたいと考える人が多いことが分かります。

良好な景観を保つためには、ある程度の規制を伴うルールづくりが必要と考える人も多いほか、自宅の周囲に花を植えたり、地域の美化活動に参加したりして、身近な場所からの景観づくりに積極的な市民の皆さんの姿勢がうかがわれます。



### 景観づくりで協力できること

身近な場所の美化活動に積極的



良好な景観づくりのためにどんなことに協力できるかを尋ねました。「庭先やベランダなど家の周囲の美化に努める」と「地域で行われる掘割や公園、道路などの美化・清掃活動に参加する」という回答が多く、市民の皆さんが身近な環境美化活動に積極的にかかわろうとする姿勢がうかがわれました。